

# はりっしも探索

## 重要文化的景観「針江・霜降の水辺景観」 選定15年のあゆみ、そしてこれから...

重要文化的景観に選定以来、重要な構成要素であるカバタや建造物の修復や維持活用を進めてきました。また、当地域の生命は豊富な湧水と美しい河川にあることから、カバタ調査・水質・水量調査、河川水質・水草調査を続け、親水施設づくりや「水辺あかり」事業を実施しています。

今後さらに、市の整備活用計画に沿って貴重な湧水を維持活用できる河川ビジョンを描き、かけがえのない「水の文化」を次世代につないでいきたいと思ひます。

- 平成22年◇重要文化的景観「高島市 針江・霜降の水辺景観」選定
- 平成23年◇「針江・霜降の水辺景観まちづくり協議会」発足
- 平成27年◇日本遺産「琵琶湖とその水辺景観」の構成文化財となる
  - ◇広報「はりっしも」Vol.1 発行
  - ◇ホームページ開設

- 平成28年◇「霜降かばた」設置
- 平成29年◇「水辺遊歩道」整備
- 平成30年◇「水辺あかり」事業開始
- 令和 元年◇「行者堂」周辺整備
- 令和 2年◇「じんざかばた」再生工事
- 令和 4年◇カバタ調査・河川調査・有形民俗文化財調査事業開始
  - ◇「水辺景観資料室」開設
- 令和 6年◇河川水草調査
- 令和 7年◇中学校美術教科書に紹介される
  - ◇日本遺産事業「はりっしも原画展」開催



### 協議会視察から



## 湧水とまちづくり

＜視察報告/北野俊朗＞

■昨年、11月9日、関ヶ原を越えて岐阜県西部、大垣市と垂井町を視察しました。岐阜県第二の都市・大垣市（人口15万人）は、松尾芭蕉「奥の細道むすびの地」としても有名です。垂井町（人口2.5万人）は、かつては宿場町として賑わい、豊臣秀吉の軍師・竹中半兵衛ゆかりの地としても知られています。まちの規模も趣きも違いましたが、湧水の活用にはそれぞれ興味深いものがありました。

### ＜「水都」大垣＞（岐阜県）

■大垣市は伊吹山の西側、揖斐川扇状地の扇端にあり、全国でも有数の自噴帯に位置しています。豊富な地下水の恵みにより発展し、「水の都」と呼ばれています。市の中心となる大垣城は大きな堀を有し水運などにも利用されていました。戦後に紡績産業が盛んになると地下水の需要が高まり、一時期は湧水が枯渇することもあったようです。近年では地下水を活用したまちづくり「水都大垣再生プロジェクト」に取り組まれています。



●名水「大手いこいの泉」案内板。命名の由来や水質などが詳しく表示されている。取水箇所地下138m・自噴水（毎分369リットル）



●八幡神社「大垣の湧水」地下125mから吹き出る自噴水。びっくりする湧水量でした。平成16年に整備。



●大垣城外堀、水門川「四季の広場」親水広場や水上ステージ、滝のトンネル、虹の橋など。春の芭蕉祭では、水門川舟下りも。



●「マンボ」と呼ばれる地下水路、横井戸を掘ってつくられた水場。日時を決めて共同で使われ、下流で農業用水にも活用。



●垂井町マンホールデザイン 相川水辺公園で開催される桜まつり・鯉のぼり一斉遊泳。



●垂井宿 旧丹波屋 宿場の風情を残して近年再生。鬼瓦に「WATER」の英文字が。

## はりっしも information 守る。伝える。活かす。

■カバタの「保存修理」「追加登録」等のご相談、「カバタ調査」「河川調査」「文化財調査」等、「水辺景観資料室」のご利用や資料ご寄贈等、重要文化的景観の整備活用のお問い合わせは、協議会役員までご連絡ください。

- カバタ調査・保全事業
- 河川調査・保全事業
- 文化財・景観保全事業
- 水辺景観資料室整備事業
- 親水まちづくり事業

私たちの大切な「水の文化」を「守り、伝え、活かす」活動を進めています。

＜令和7年度＞

針江・霜降の水辺景観まちづくり協議会 役員

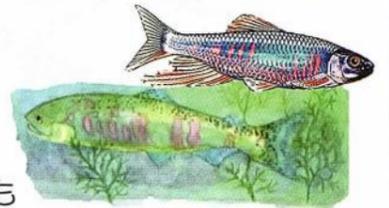
- 会長 北野 俊朗
- 副会長 山川 隆・小畑 香津彦（針江区長）・海東 弘（霜降区長）
- 監事 山中 昌浩 藤本 徳治
- 【針江】 足立 亨・伊藤 昭・清水 裕之・高田 一雄・高橋 正通
- 前田 豊彦・水田 正彦・三宅 進・森田 茂之・森田 幸則
- 【霜降】 青木 博・石田 匡信・山川三津浩



針江・霜降の水辺景観まちづくり協議会  
情報・インフォメーションはこちらから  
<https://harishimo.jp/> Facebook

## 水辺景観 四季の便り

### ＜アメノイオと寒バエ＞



■昨年11月の話題になりますが、今年もピワマスが遡上。それも霜降大川に出現しました。

行者場・石津井までは毎年見られますが、ここまでの遡上は聞いたことがありません。ピワマスは、秋に産卵のために琵琶湖から川を遡り大雨の時に一気に上流までやってくることから「アメノイオ(雨の魚)」と呼ばれ、「アメノイオ御飯」は県の無形民俗文化財となっています。

また、晩秋から冬にかけて旬を迎えるオイカワは「寒バエ(寒バヤ)」と呼ばれ、お正月料理として昆布巻きにしたとのこと。真冬の針江・霜降の河川では、オイカワ、カネヒラ、ヤリタナゴなど、きれいな魚たちがたくさん見られますが、残念ながらブラックバスも混んでいるようです。

## ！ サワガニの大量死 発生！？

＜報告/河川調査班＞



■昨年10月下旬、霜降区の方から霜降会議所前大川の上流・下流各50m程の間で88匹のサワガニが大量死していると連絡がありました。

河川調査班では、11月1日にこの地域に流れる川の水質変化や異質物が流れ込む可能性有無を調査しました。結果、電気伝導度、化学的酸素要求量(COD)等、透視度(濁り)等に変化は無く、異質物の流れ混む可能性もありませんでした。

過去にも同様の事象が晩秋から初冬に稀に発生したことがありましたが、今回のように詳しい情報をいただいたのは初めてでした。この貴重な情報を基に、引き続き調査分析を行っていきます。

\*なお、11月下旬にも同様の場所でサワガニ約150匹が死んでいるとの情報があり、上流域を含めたエリアで状況確認実施しています。



●写真は2回目発生時（11/22撮影）

### ＜中山道「垂井宿」＞

■垂井町は、大垣の伊吹山側の隣町、扇状地の扇央部あたり、地下水が地中に潜り込んで湧水が少ない地形に位置します。地中からわずかに染み出す水を集めて生活や農業用水として大切に利用され、水に関しては大変な苦労があったようです。中山道の宿場町ということもあり、街道沿いには江戸時代に賑わったと思われる建物も多く残っており、素朴な中に往時の風景が見えるようで心に残りました。